

公益財団法人8020推進財団

令和4年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：「歯科」からのメタボ対策研修会

～咀嚼・食行動の視点を取り入れた生活習慣病対策について～

2. 申請者名：一般社団法人 奈良県歯科医師会 会長 末瀬 一彦

3. 実施組織：一般社団法人 奈良県歯科医師会 成人歯科保健委員会 大橋 正和、吉岡 弘直、青木久美子、川田 芳樹、仲川 卓範、前田 有騎、花岡 悠子、西川 敦、下辻 寛子、平山 隆浩

4. 事業の概要：第3期の特定健診・特定保健指導の改定により標準的質問票に咀嚼の質問が加わった。この結果、特定健診・特定保健指導関係者である保険者、保健師、管理栄養士等と歯科専門職が情報共有できるようになった。これは歯科口腔保健が国の健康づくり施策に繋がる新たな経路（ルート）が開けたことを意味している。俯瞰すれば、歯科から咀嚼を通じたコモンスク（共通危険リスク）アプローチを可能にする環境が整ってきたと言える。折しも、奈良県では令和4年8月から国保連の主催で咀嚼機能の低下が疑われる者に対し、生活習慣病対策として歯科受診勧奨事業が始まることになっている。しかし、このような意図で歯科医療機関を来院する対象者に対して、具体的でかつ実践的な歯科保健指導を実施しうる人材が歯科医療機関に充足しているとは言い難い。

今回の研修会の目的は地域の歯科医療機関が成人期の生活習慣病予防、高齢期の低栄養防止や誤嚥性肺炎予防等、からだ全身の健康作りの文脈の中で咀嚼や食行動の重要性を理解し、歯科保健指導を展開するための新たな社会環境の整備である。

5. 事業の内容：メタボリックシンドロームや肥満の予防のために近年新たに蓄積された咀嚼や食行動と口腔保健との関わりや生活習慣病と歯科疾患を結ぶコモンスクアプローチの方法の理解、および咀嚼や速食に関する歯科保健指導の力量を養成するために以下の研修会を開催した。

「歯科」からのメタボ対策研修会

(1) 講演会 テーマ：「咀嚼・食行動を取り入れた生活習慣病対策について」

講師：国立保健医療科学院 生涯健康研究部 安藤 雄一先生

(2) ディスカッション

テーマ：「特定健診質問票への歯科項目の導入を巡って」

（行政・歯科医師・歯科衛生士の立場から）

講師：奈良県医療政策局福祉医療部健康推進課 堀江 博

（社）奈良県歯科医師会 成人歯科保健委員会 理事 大橋 正和

（社）奈良県歯科衛生士会 会長 米田 衣代

日時：令和4年11月24日（木）10：00～11：20

場所：奈良県歯科医師会館視聴覚室・WEB配信

対象：歯科医師・歯科衛生士

定員：60名

6. 実施後の評価（今後の課題）：3年にわたるコロナ禍の情勢のため、会場の確保や研修会の日程調整、会員周知が難航し、定員60名に対し参加者は31名という結果となった。人材育成の観点からみて、会員総数に対する参加者の割合は低く、今後の課題と考える。しかしながら、本研修会アンケートを通じ歯科医療関係者が咀嚼指導を実施することに対して一定の理解が得られていることが確認できた。

今回の講習会は社会整備の観点において「特定健診と歯科との関わり」を県内の歯科医療関係者に浸透させる端緒となった。今後の課題としては歯科医療関係者に対し、あまり馴染みのない咀嚼支援やコモンスクアプローチの概念を継続的に周知していくことであると考えている。これらの認知度を高めていく方策には更なる研修会の開催や特定健診を担う保健師・栄養士等との連携が考えられる。

咀嚼指導を行う歯科医療関係者が増加することは、社会資源の有効活用にも繋がる。奈良県では市町村におけるNo.13咀嚼の該当者への歯科受診勧奨の取り組みはようやく始まったところであり、県民の健康寿命の延伸に向け、歯科が孤立することなく咀嚼・食行動の面から寄与できればと考えている。

